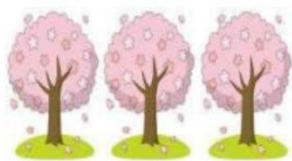


高取小だより

令和7年12月5日



三本桜

第32号

ふかく考える子 あたたかみのある子 がんばりのきく子
12月の目標：交通ルールを守って生活しよう

「誰か」のことじゃない ～人権週間によせて～

12月4日から10日は人権週間です。多くの尊い命が奪われた第二次世界大戦の反省から、国際連合は、世界の平和を実現するために、1948年（昭和23年）12月10日に開催された第3回総会において、全ての人民と全ての国とが達成すべき共通の基準として「世界人権宣言」を採択し、この日を記念して「人権デー（Human Rights Day）」と決めました。日本では、1949年（昭和24年）から「人権デー」を最終日とする1週間を「人権週間」と定めて、全国的に人権尊重の普及・啓発活動が行われています。

法務省人権擁護局の啓発資料に、人権とは「全ての人々が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」「人間が人間らしく生きる権利で、生まれながらに持つ権利」と説明されています。

人権は誰にとっても身近で大切なものであり、互いに違いを認め合う心によって守られ、人権の大切さは誰もが心で理解しています。しかし、残念ながらですが、様々な人権問題が依然として存在しています。

人権侵害につながる事案の背景には、歴史上つくられた偏見や誤った知識、迷信などに基づくものがあります。また、普段の生活では同じ意見や境遇にあるもの同士が集まって、行動したり考えたりすることがあります。このこと自体は決して悪いことではありません。しかし、それが高じて無意識のうちに、同じ行動をしない人、同じ考えをしない人を認めなかったり、排除したりすることが起こってしまうことがあります。「人権を守る」「人権を大切にする」ということは、日頃から意識して、「誰か」のことではなく、「自分のこと」として捉えることが大切だと思います。

近年はインターネットの普及に伴い、その匿名性や情報発信の容易さから、個人に対する誹謗中傷、プライバシーの侵害等、子どもが加害者や被害者になりトラブルに巻き込まれる事案も発生しています。学校では情報モラルに関する授業を行い、ICT機器の適切な扱い方、IDやパスワードの管理、個人情報の取り扱い、長時間使用による弊害などについて指導をしています。家庭におきましてもお子様と一緒にインターネットとのよりよい付き合い方を話し合い、困ったときに相談できる関係を作っていただくようお願いします。

また、人権週間の取組として、道徳の授業を中心に人権に関することを扱い、子どもたちの人権意識を育てていきます。私たち教職員も人権感覚を高めるために、日常の指導を振り返るとともに、人権に関する研修、いじめ・虐待の防止等の研修を行い、自らの人権感覚・人権意識の高揚に努めていきます。



令和7年の締めくくりを

インフルエンザが猛威を振るっています。本校においても、先月半ばから、1年生、4年生、6年生で学級早退措置や学級閉鎖を行いました。来週には二十四節気の「大雪」に入り、いよいよ本格的な寒さが訪れます。健康管理にはくれぐれもご注意ください。

さて、1年の締めくくりをする月です。子どもたちは、今年の初めに立てたであろう目標は果たせたのでしょうか？

「約束の時間を守る」「締め切りを守る」といった「他人との約束」であれば多くの人が守っています。なぜなら、「他人との約束」を破ると、信用を無くしてしまうからです。「他人との約束」を守ることは社会で生きていくうえで最低限のマナーであり、防衛本能ともいえるかもしれません。

それでは、子どもたちは自分の目標を達成するための約束、つまり「自分との約束」は守っているのでしょうか？ 各分野において成果を収めている人は、みんな「自分との約束」を大切にし、守っています。ただし「自分との約束」を守るには、並々ならぬ精神力が必要で、強い信念や逆境を乗り越える力、日々前へ進むモチベーションなどがなければ難しいものです。多くの人は、他人には厳しいが自分には甘く、「明日から、〇〇から」と自分との約束は簡単に破ってしまいます（私もそうです・・・）。成功する人は、自分との約束を守れる人。今日からでも自分で決めた「自分との約束」は守っていききたいものです。



懇談会 よろしくお願ひします

12月15日（月）から18日（木）まで懇談会を実施します。日時の調整にあたっては、ご多用の中、無理をお願いしました。学習の到達度、授業中の様子、提出物、係活動、友達関係、冬休みにがんばってほしいことなどから、いくつかを精選してお話をさせていただきます。ただし、限られた時間の中では、十分な話ができないかもしれません。何かありましたら、事前に担任、学年主任までご連絡ください。よろしくお願ひします。



一緒にやろう大作戦

体験は子どもたちの心の成長にとっても大切です。小さいころからのさまざまな体験を通して、子どもたちは感覚を働かせ、運動をし、ものをつくり、想像します。また、様々な体験活動を通じて家族や周囲の人々、地域や社会のために何かをすることで、子どもたちは喜びを感じるという、人間としてごく自然なあたたかい感情がわき起こってきます。言い過ぎかもしれませんが、体験しなければ成長はしません。失敗しても、その失敗を次に生かすことでより成長します。

例えば、大掃除は、体験のいいチャンス。窓ふきやお風呂掃除など、任せてもいいですし、一緒にやっていただいてもいいと思います。子どもたちにやらせるより自分でやってしまった方が早いのですが、そこをあえて・・・子どもたちが、自分も役に立ったなあという気持ちを持ち、家族の一員という実感をもってくれると、年末のすてきな時間となりそうです。

